

題材の目標

- (1) 自分の絵や絵を飾る額縁の造形的な特徴について分かるとともに、木やのこぎりなどの材料や用具を使い、表し方を工夫して、自分の絵に合った額縁をつくることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自分の絵からつくりたい額縁を思い付き、木の特徴を生かしてどのような形や色にするか考えたり、身近にある額縁や自分たちの作品などから、自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 進んで自分の絵に合う額縁をつくり、つくりだす喜びを味わうとともに、それを身近な場所に飾ることで、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

指導のポイント

○生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成(※1)

絵を描いて終わるだけでなく、絵に合った額縁をつくり、児童の身近な生活の中で飾れるようにすることで、楽しく豊かな生活を創造する態度を養う。また、額縁の形や色などについてイメージを深める場面で、家庭や身近な場所にある額縁や写真立てなどのデザインを鑑賞することで、生活や社会と形や色などとの関わりについて気付くことができるようにする。

○自分の思いを工夫して表すために必要な基礎的・基本的な知識や技能の習得(※2)

児童の手先の巧緻性や発達を踏まえて、自分の思いを表すために必要な材料・用具の基本的な扱い方を具体的に指導する。このとき、安全な扱い方について指導を徹底するとともに、児童が失敗を恐れることなく、材料や用具をくり返し扱うことで慣れることができるようにする。

(材料や用具については、文部科学省のWebページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zukou/index.htm# も参照のこと)

○どのように表すか児童が主体的に考え、表すことができるようにする(※3)

額縁をつくる過程で、板の切り方を工夫する、板を貼り合わせる、木の色の感じを生かして部分的に色を塗るなど試行錯誤したり、友達の作品を見合ったりすることで、様々な表現方法に気付くことができるようにする。このことにより、児童が自分の絵に合わせてどのような形や色で表せばよいか、そのためにはどのような材料や用具を使えばよいかなどを自ら考えながら、表現方法を選んだり、組み合わせたりして、「世界に一つだけの額縁」をつくることができるようにする。



題材の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1 ・ 2	○自分が描いた「世界に一つだけの花」を飾る額縁をつくることを知り、額縁についてイメージをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある額縁や写真立てなどの例を取り上げ、額縁で飾られた絵とそうでない絵などを見て、与える印象の違いを感じ取れるようにする。(※1)
	○木の特徴やよさを知り、どのようなことができるか考える。	<ul style="list-style-type: none"> 木を手に取り、手触りや匂いを確かめるなど、体全体の感覚を働かせて、素材の特徴やよさを知ることができるようにする。
	○のこぎりの基本的な扱い方を知り、その扱いに慣れる。	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの安全で正しい扱い方について、児童の前で教員が実演したり、動画資料を見せたりして、具体的にイメージしやすいようにする。(※2) 不要な木切れを準備し、必要に応じて、のこぎりの使い方に慣れることができるようにする。 のこぎりの刃の角度や手足の力の入れ方について、支援する。
3 ・ 4 ・ 5	<p>○自分のイメージに合わせて、材料や用具を工夫して額縁をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の絵の大きさに合わせて木を切り、部品を絵のまわりに並べる。 やすりを使って形を整える。 木工用接着剤で組み立てる。 着色や塗装をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、教員が様々な表現方法を例示したり、友達の作品を見合ったりすることで、発想や構想を深めることができるようにする。 木でつくった部品を何度も並び替えたり重ねたりし、額縁の形を決めることができるようにする。(※4) 切り口は特に念入りにやすりがけをするよう助言する。 絵の具、ニス、ワックス等の材料を準備し、絵に合わせて自由に着色や塗装を選ぶことができるようにする。
6	○出来上がった作品を友達と対話をしながら互いに鑑賞し、これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が感じ取った額縁全体のイメージと、形や色などの造形的な面白さやよさなどについて話し合うことを押さえる。 友達との対話が、多様な見方・考え方を得る機会となるように、一人一人の児童が、作品の造形的な面白さやよさなどに気付くための時間を十分に確保する。



展開例（本時3・4・5／6）

本時の目標		・木やのこぎりなどの材料や用具を使い、表し方を工夫して、自分の絵に合った額縁をつくる。
導入	児童の学習活動	指導上の留意点
	○前時の学習活動を振り返る。 ・のこぎりなどの用具の扱い方や、安全に活動を進めるための注意点を確認する。	・前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認し、学習活動に見通しをもてるようにする。 ・のこぎりなどの扱い方を確認し、板書するなどして、学習活動を安全に進めることができるように環境を整える。
自分の絵に合った「世界に一つだけの額縁」をつくろう		
展開	○自分の絵に合った額縁をイメージし、それに合わせて、木を切ったり、やすりで磨いたりして額縁の部品をつくる。 「組み方を変えてみよう」「残った木で装飾してみよう」「短くなったので、つないでみよう」「重ねて組み合わせてみよう」「角を丸くすると、花が目立つかな」「茎に合わせて細長くしよう。」	・額縁の部品を絵のまわりに並べて、出来上がりのイメージを予想したり、組み方や重ね方を変えたり、新たな部品を付け足したりしてイメージを広げるなど、試しながらつくるよう助言する。（※3） ・出来上がりのイメージがもてない児童には、友達の作品を参考にしたり、作りながら、表したい事を見付けたりするよう伝える。 「思い付いたことをどんどん試してみよう。」「木の組み方を工夫してみよう」「友達の作品も参考にしてみよう」「木を短く切りすぎた人は、もう一度作り直しても構いません」
	○絵の具などで、色をぬったり絵を描いたりする。 「薄く塗ったらどんな感じになるのかな」「全部塗らずに木の色を生かそう」	・自分の絵に合った着彩ができるように、絵の具を厚く塗ったり、薄く塗ったり、白をまぜてみたりと様々な表現方法があることを示す。また、思い付いたことを、自由に試し塗りをできるように木切れを準備しておく。（※3）
	○額縁の部品を接着剤で固定する。	・接着面積の大きさの工夫や適量を塗るなど、適宜、扱い方について助言する。また、接着面を固定するためのクランプやクリップなどを準備する。
まとめ	○学習活動を振り返る。	・材料や用具を工夫して、自分の絵に合った額縁をつくることできたか振り返り、次の学習活動につなげることができるようにする。